

ニュージャージー補習授業校(2012年9月15日)

作文の組み立てには、「はじめ」「なか」「終わり(終末)」があることは以前にお知らせしました。

また、「はじめ」で、書き出しの方法もお知らせしました。

「こ」では、「**終わり(終末)**」の**書き方**をお知らせします。「こ」でも、宮川俊彦氏の実践から学びたいと思います。

書き始めや題と同じように、効果的な終わり方を学習することも大切なことです。

中心を決めて、さつと書き始めて、きちんと書き終えられることを目指しています。身についた技になるために、以下の例を真似て書いてみることも練習として大切なことです。**作文コンクールでは、「技1と2」が有効です。**

【技 その1】 台詞(せりふ)で終わる。

・恵ちゃんが言った。「サヨナラ。」

【技 その2】 場面を書いて終わる。

・時計塔の針は、六時を指していた。

【技 その3】 ため息で終わる。

・「あーあ。」

【技 その4】 質問で終わる。

・先生。どう思いますか?お願い。教えてください。

【技 その5】 まとめ言葉を使って終わる。

・つまり、言いたいことは〜

・だから、わたしは〜

・結局、こんなときは〜

【技 その6】 疑問を投げかけて終わる。

・ぼくは、みえっぱりなんだろうか。

・わたしは、まちがっているだろうか。

書き終わったら、推敲(すいこう)をしましょう。時間を置いて翌日に推敲をすると落ち着いて、見直せます。

推敲とは、詩や文を作るのに「字句をいろいろ考え練ること。昔、中国の唐(とう)という国の詩人賈島(かとう)が「僧は

月夜の晩に門を推(お)す」という詩を書いた。迷った上で、「推(お)」を、「敲(たた)く」にしたという故事(こじ)古い話)による。『小学館 新選漢和辞典』

自分の書いた、作文をはじめ詩や俳句や短歌などを作ったら必ず見直しをしなければなりません。初等部の一年生であれ、中等部の三年生であれ、同じです、自分の作文を見直す習慣をつけましょう。

【ポイント1】文章の内容について↓ まちがいはないか。説明不足のところはないか。

【ポイント2】文章の組み立てについて↓ 題と中身が合っているか。

【ポイント3】文章の表現について↓ 主語と述語が合っているか。一つの文が長すぎないか。

【ポイント4】文字・語句について↓ 文字は丁寧か。漢字のまちがいはないか。